

(4) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

概要

赤潮発生件数は12件で昨年（15件）と同程度。本年は例年と同様珪藻類による赤潮が多かったのが特徴。構成種は*Skeletonema* spp. が最も多く、次いで小型珪藻類であった。有害・有毒種では3月に*Alexandrium tamarense*による赤潮が1件発生した。*Chattonella antiqua*は最高5 cells/ml、*C. marina*は1 cell/ml、*C. ovata*は最高42 cells/ml、*Karenia mikimotoi*は99 cells/mlを確認。新奇種として、9月に*Takayama acrotrocha*による赤潮が大阪湾南部を中心に発生した。漁業被害を伴う赤潮の発生はなかった。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ (<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>)で公表した。

調査方法

1. 調査定点
大阪湾全域20定点（浅海定線調査に準じる）、もしくは東部海域14定点（水質監視調査に準じる）
2. 調査期間と実施日
2017年1月～12月について、貝毒警戒時期である2～5月、赤潮多発期である6～9月は概ね週1回、それ以外の月は月2回
3. 調査項目
水色、透明度、プランクトン細胞数等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」（19トン、680 kw×2基）

調査結果

表1、2、3、4のとおり。

担当者

秋山 諭、上田真由美、山本圭吾

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	7	1	4	0	12
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	0	0

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	1	0	1	2	2	2	1	2	3	0	1	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 月をまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種名	発生件数(件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	7
2	小型珪藻類	2
3	<i>Alexandrium tamarense</i>	1
	<i>Pseudo-nitzschia</i> sp.	1
	<i>Takayama acrotrocha</i>	1
	ハプト藻類	1
計		13

(注1) 最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注2) 複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表 4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理番号	被害時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度(cells/mL)
	被害なし					